

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立茜部小学校

校長名 南部 浩一

市の重点項目	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・人権意識を高めるカリキュラムマネジメントの構築と、それにもとづく主題研究の実施 ・ICT機器を積極的に活用した(ロイロ、タブレット)授業実践 ・英語教育の充実と、コミュニケーション力の向上	A	・今年度は人権教育に焦点をあて研究を行った。カリキュラムマネジメントにもとづき、各教科の学習のなかで3つの人権意識を高めるような指導の在り方を明確にした。そのなかで、互いの考えを尊重しながら話し合いを深め、自他の存在を大切に児童を育成した。 ・特別活動や授業、家庭学習において積極的にICT機器を活用し、実践を進めることができた。 ・英語を使った学習活動を通して、積極的に伝え合う姿を高めることができた。	・児童が仲間を大切にしながら、落ち着いて話を聞いたり、話したりしている姿が見られ、人権意識が高まっていると感じる。 ・今後も互いを思いやりながら、他者とよりよく関わり合える児童を育てていきたい。	・「自分を大切に 仲間も大切に」のキーワードのもと、引き続き「人権」を柱にしたカリキュラムマネジメントを行い、年間を通して人権意識を高めていく。 ・焦点を絞り込んだ全校研究会、教育課程の伝達講習等を通して、情報共有や授業改善に努める。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・あいさつ運動や学習指導を中心とした小中一貫教育の推進 ・ぎふMIRAI's構想具現に向けた地域から学ぶ学習活動(生活科・社会科・総合等)における資源や人材の活用	A	・小中連携として合同あいさつ運動を実施し、あいさつを活性化することができた。また、中学校の授業を体験し、中学校生活にスムーズな接続ができるよう努めた。 ・5年生の米作り、3年生の地域の歴史を学ぶ学習、2年生の地域探検の学習では、地域の方を講師として活動を仕組んだ。また、茜部サポーターに、毎日の登下校や1年生の下校の見守りを依頼し、学校と地域が連携して安全な登下校を実施することができた。	・引き続き、地域のあかなベサポーター、PTA地域生活委員会などと連携し、児童の登下校の安全を支えていきたい。 ・地域での児童の挨拶の姿がよくなってきている。今後さらに、地域と家庭、学校が一体となって子ども達に声をかけていくことが大切である。	・総合的な学習の時間を中心に、地域の人・もの・ことについて学ぶ機会を積極的に取り入れ、地域のよさを実感し、地域を愛する心を育てる。 ・学習指導について、加納中校区で実践を交流し、系統的な指導を行う。 ・交通安全教室の実施など、今後も安全な登下校と地域と学校が一体となって支えていく。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	・授業や行事等における具体的な子どもの姿や事例を通して学級経営を学び合うことによる生徒指導力の向上 ・学校運営協議会やPTA、地域からの意見や情報を活用した学習指導や学級経営改善の取組 ・「チーム茜部」を合言葉にした温かい職員集団の創造	A	・縦割り活動や委員会、クラブ活動、研究授業等を通して、複数の職員で一人一人の児童に関わり、そこで見つけたよい姿や今後さらに期待する姿について、定期的に交流を行った。 ・学校運営協議会委員や保護者に授業を公開し、よさや課題を指摘していただき、よりよい授業づくりや学級づくりに努めた。 ・「チーム茜部」として職員も互いに支え合いながら温かい学校づくりに努めた。	・今年度は授業参観やスポーツフェスティバル、学校運営協議会等で児童に関わったり、授業を親たりする機会が増え、学校の様子がよくわかった。児童が仲間と生き生きと楽しんで活動している。 ・今後も、地域や家庭、学校が具体的な児童の姿を通して意見交換をし、三者一体となって児童を育てていきたい。また、「人と人との関わり」をより確かなものとしていけるような取組を地域として工夫していきたい。	・生徒指導上の問題やいじめ事案について、迅速に複数で対応し、情報を共有すると共に、家庭との連携を密にして一人一人の児童に丁寧に関わっていく。 ・学校の活動を積極的に公開し、地域や保護者からの意見を聞きながら、よりよい学級づくり、学校づくりに努める。
災害や事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・危機管理意識を高め、迅速に対応するための職員研修の実施 ・「自分の命は自分で守る、自分の健康は自分でつくる」児童を育てる指導の工夫 ・いじめ事案に対する迅速な対応といじめ未然防止の取り組みの充実	A	・「いじめを見逃さない日」や「よいことみつけ」などの取組を全校で継続して行い、誰もが大切にされる学校づくりに努めた。特に、児童が主体的にいじめ防止に取り組むことが大切と考え、福祉委員会が中心となり、全校によさみつけを広げる活動を積極的に行った。 ・職員の危機管理意識を高めるために、各種研修を定期的に実施した。 ・様々な災害を想定した防災教育を実施し、自分の命を自分で守ることができる児童の育成に努めた。 ・情報モラルについて繰り返し指導を行い、児童の意識を高めることができた。家庭に対しても呼びかけを行い、意識を高めた。	・いじめの問題は、地域社会全体で丁寧に関わっていくことが大切である。気になる様子があったら、迅速に情報交換をしていきたい。 ・地域でも防災に関する取り組みを丁寧に行っている。今後は、学校と地域が連携した防災教育を行い、地域全体で防災について考えていけるとよい。	・情報モラル教育は、継続して行うことが大切である。ネットいじめを防止するためにも、根気強く指導をしていきたい。 ・地域と連携した防災教育を実施し、地域全体で防災について考える機会を設ける。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・ユニバーサルデザインの観点に基づいた教室環境づくり ・安心安全な校内環境の整備	A	・危機管理意識を高くもち、校舎施設の点検を丁寧にを行い、事故の未然防止に努めるとともに、危険個所については校務主任によるとりまとめ、管理職への報告、校務員による修繕、または市への報告と、常に迅速な対応を心がけ、校内環境整備に取り組んだ。	・PTAや地域の人材を活用し、安全点検を行ったり、危険個所の修繕を行ったりし、より多くの力で安心安全な教育環境の整備に努めたい。	・PTAや地域など、多くの目で教育環境を見つめ、児童の心身ともに健全な育成に資するための改善や物品の購入を進める。 ・老朽化による危険個所が増えてきているため、発見時には速やかに市への報告及び修繕要望の提出を行い、環境整備に努める。